

令和元年度小松市立符津学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	魅力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に運営委員会主催で「挨拶オリンピック」を行った。朝、学校に登校して、自主的に挨拶運動に参加するという活動であったが、6年生を中心に学年で声をかけ合い、多くの児童が参加して挨拶の輪が広がった。今後は挨拶運動への学校単位の参加率を上げられるよう、運営委員会や6年生を中心に学校全体に声をかけていく。 ・学校が「楽しい」と答えた児童の割合は62%であった。後期はその割合が67%になるよう、児童会を中心に符津っ子集会や各委員会主催のイベント等で「学校が楽しくなる」ような活動をしていく。 	
	5つの気プラス1(元気・やる気・勇気・本気・根気・陽気)の内、「やる気」と「陽気」に重点を置き、何事にも明るく前向きに立ち向かう意欲や挑戦する心を育成していく。各種行事や集会、児童会活動や縦割り活動において自己決定の場や、認め合う場を設定し、自己有用感を高められるようにする。		
特別支援教育	不登校児童の抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向の児童は、5月中旬からふれあい教室に通級している。6、7月は1日も休まず通級している。放課後、母親と学校に来て担任ともつながっている。ふれあい教室の指導員や市センターの先生とも連携しながら学校に復帰できるよう見守っていききたい。 ・各学級の問題行動のある児童については、専門相談や教育相談を要請し、校内委員会を開いて今後の支援について話し合い、それぞれの学級で実践している。 ・夏休み中に個別の教育支援計画を立て今後の支援につなげていく。また、児童理解の会を持ち、全職員で共通理解をしていく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が認め合える学級づくりをする。 ・問題行動や不登校傾向の早期発見に努める。 ・校内委員会を開き、効果的な支援について話し合う。 ・「児童理解の会」を持ち、全職員で共通理解を図る。 ・外部機関とも連携し、支援に生かす。 		
道徳教育	重点項目についての児童・教師の意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・重点項目については機会があるごとに呼びかけ、職員の意識は高めてきた。教職員アンケートでも92%と出ており、意識して取り組んでいることが分かる。 ・夏休み中に再度呼びかけをし、時数の確保や重点項目への意識を高めていきたい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳ノートを使い、児童に自分の心の変容に気づかせたり、教師が児童一人一人を見取ったりできるようにし、道徳の評価にもつなげていく。特に重点項目については機会ごとに呼びかけを行い、学校全体で意識を高める。 		
読書教育	読書の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジブックを整備することで、児童にいろいろな本に触れる機会になった。また、チャレンジブック読書月間を設けることで、普段読んでいない児童にも本に触れる機会となった。 ・クラス全員読書月間では12クラス中9クラスが全員本を借りることができた。図書委員会での企画や担任からの声かけによって実現できた。今後も不読者に対する声かけも続けていきたい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジブックを整備し、チャレンジブック読書月間を設けたり、本の紹介など内容に興味を持たせる企画をしたりして、良書に親しませていく。 		
キャリア教育	系統的・計画的にキャリア教育を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議にて、年間計画について共通理解をおこなった。年間計画は、昨年度末に完成したものなので、まだ、浸透していない様子である。職員が意識して取り組めるように、声掛けをしていく。また、総合や生活科の中で地域との関わりをもてるようにしていきたい。 ・演劇鑑賞では、4年生が劇に参加したり、低学年が劇団員の方と給食を食べたりすることで、劇団員という仕事にふれることができた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や総合的な学習の時間を中核として、年間計画に沿って実施する。 ・体験的活動や啓発的活動を地域の人材に招聘し効果的に活用する。 		
保健健康教育	〈自分の心身の健康に関心を持ち、生活改善をする〉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活点検を週明けに実施することはできたが、児童の意識をつくるだけでなく、保護者にわが子の生活の向上を意識してもらいたい。そのために、低学年は週末に生活点検カードを持ち帰り、保護者のチェックを受けた後、週明けに点検するとか、学期末の個人懇談に生活点検をもとにわが子の生活を見直すなど、家庭への発信を強化できたら良い。 ・児童会の保健委員会のキャッチフレーズは、実施後、それをどう活用していくかを検討したい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活点検やアンケートで自分の生活を見直す機会を持つ。 ・学校保健委員会や児童保健委員会で元気に学校の活動に臨むには何が必要なのかを考える場を設定する。 		
情報教育	情報モラル教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間1時間以上の情報モラルの授業をするよう呼びかける。また、外部組織と連携し、保護者も含めて情報モラルについての学ぶ場を設定する。 ・生活点検を週明けに実施することができた。メディアのルールを守る項目に×がついたのは、全体の4.8%と低い数値だったが、ルールについては、あいまいなものが多かったので、ルールについて明確に決めることができるように「情報モラルについて」とリンクさせていきたい。また、保護者懇談の際にメディアのルールについての冊子を配り、周知することができた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育年間指導計画に則り、各学年の実態に応じて、情報モラルについての授業を各クラス1時間以上設定し、情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てる。 ・メディアルールを決め、生活点検でメディアとの付き合い方について見直す機会を持つ。 		
家庭・地域の連携	地域に開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより等で学校の教育方針が十分に理解され、行事等で保護者や地域の方々の協力を得ることが多くあり、教職員のアンケート結果も100%と高かった。しかし、「保護者や地域の方の人材活用を積極的に行った」の教職員アンケート結果は73%と低かった。授業での人材活用という点で、今後積極的に人材発掘・活用・登録へとつなげていき、地域人材データとして残していきたい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や育友会活動を通して、情報発信だけでなく情報収集も行い、保護者や地域との連携を深める。 ・総合や生活科や社会科や特別な教科道徳などの学習活動で、保護者や地域の方の人材活用を積極的に行う。 		

学校関係者評価	<p>中身の濃い教育活動をして、教室等教育環境もきちんとしている。また、TVや新聞等でも学校の活動を目にする機会が多く、楽しく拝見している。先生方も教育活動に一生懸命で、保護者も何とか応援したくなるのだと思う。</p> <p>学校評価結果については、様々な取組を行っているが、教師と児童との差にも着目しながら、今後も基礎基本の定着・学力向上に、中学校とも連携して取り組むことが大事である。色々なアンテナを張って、児童が持っている力を引き出すチャンスを作ることが望まれる。</p> <p>いじめや不登校児への対応もできている。報道で、虐待や不登校等のつらいニュースを見ることがあるが、その子その子に合った環境づくりや心のケアをしてあげて、保護者が安心できる学校づくりを今後もしていくことが大事である。担任の負担が大きくならないよう、専門家の活用もしていく必要がある。</p> <p>情報モラルは、これから大切。非行被害防止講座を開くとのこと、保護者の情報モラルも高めていくことが大切である。</p> <p>校下の児童数が増えていくとのこと、うれしい。</p> <p>今後は、子どもたちには、耐える力・寛容な心が必要。交流の場、よさを引き出す場、考える場を増やしていくことが望まれる。そして、保護者と学校が同じ方向を見て歩んでいって欲しい。</p>
---------	--